

KTK

NO. 75

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

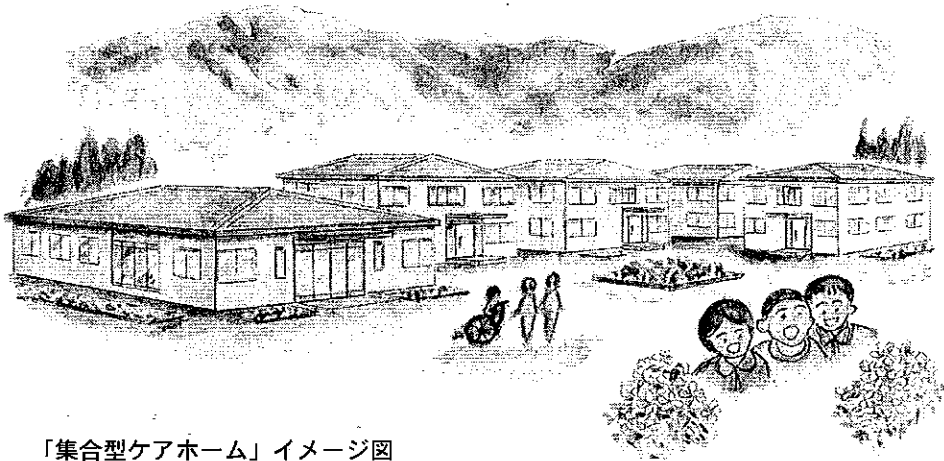
編集 あらぐさ後援会

編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会

〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道4-3

TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

とどけ！ぼくらの願い 「あらぐさ集合型ケアホーム」建設支援スタート



「集合型ケアホーム」イメージ図



あらぐさ 野々下靖子
後援会長

集合型ケアホーム建設
支援委員会 委員長

みなさま おかわりなくお過ごしでしょうか。
いつも、後援会活動にご協力をいただき、誠にありがとうございます。
ございます。

このたび後援会は、あらぐさ福祉会がすすめる「集合型ケアホーム」建設を支援する取り組みをスタートさせました。
この事業は、後援会をはじめ、地域のみなさま方のご理解がなければ実現することはできないと思います。

今後とも引き続き、あたたかいご協力とご支援をいただきますようお願いいたします。

集成型ケアホーム実現へ 学習会開催(2月14日) 建設支援の輪を 地域の中へ広げましょう

集成型ケアホームは「今までの経過から見て、絶対にできると感じますので、皆さん頑張りましょう。」と野々下後援会長による開会の挨拶で始まった学習会です。最初は、ビデオで「ケアホームかざぐるま」の様子を学習し、その後、5人の父母、3人の利用者、2人の職員から建設への熱い思いが語られました。休憩時間にはビデオで全職員の思いを放映、紹介しました。

休憩後は、角事業推進室責任者が「集成型のケアホームの必要性」「3〜400坪の土地を自力購入し、5年間で5軒建てる」「資金計画では4000万円不足」と建設計画を詳細に報告。実現の展望として、高野理事がびわ湖学園の経験を紹介しながら①施設だけでなく地域をつくる ②障害者にとって良質なものをつくる ③工夫した寄付集め、の3点を訴えました。施作り方の経験を岐阜の「いびぎ福祉会」の嶺嶺さんが話されました。最後に、建設を実現させる「アピール」を全員で確認し、学習会を閉じました。発言の一部を要約して紹介します。



長岡京市立産業文化会館にて

家庭の支援に限界 岩崎京子さん

24時間365日の支援をしてくれる事業の完成を目標としているところに嬉しい気持ち一杯です。親の体力低下などで余暇活動等を家庭で支援することに限界を感じています。ショートステイなどは体制の方も不足しているのが現実でしょう。本人の社会参加を支えることが大事です。将来の生活を見据えた生活支援のプログラムが必要だと感じています。深い理解を持って見守り支えてくれる人の存在が大きい。誰もが住みやすい地域になることが大切とつくづく思っています。(家族)

安心して暮らせる場を 奥田 保さん

「あらぐさ」開所当初からお世話になっています。「あらぐさ」に通所しただして毎日生き生きと生活しています。だんだん年をとり在宅での介護が出来なくなってきました。いずれ3人で暮らしている穏やかな時期が終わる日が必ず来るということを覚悟しておかなければなりません。岳人にとつて安心して過ごせる場所、そこで寝起きしながら、大好きな「あらぐさ」へ毎日通える、そういう環境を、そういうホームが出来れば、そこへ入れていただければうになれば我々も安心です。(家族)

親も実現に向けて進む 石原洋子さん

以前はケアホームの生活は考えられなかった。正直、先の見えないしんどさ、不安をかかえての毎日でした。これまでに積み上げてきたショートステイは、今ではさっさと出かけ、ヘルパーさんとは関係もスムーズになりいい顔で帰ってくる。新しく日中一時では順調なスタートができた。このような生活をしているうちに社会のルールに適應できる力がついてきました。「ケアホームで生活をさせたい」と強く思うようになりました。親も実現に向かって進みたい。(家族)

老いることを実感 木村トミ子さん

小さいときからものすく手のかかる子でした。「どうなるだろう、この子は」と思っていました。今ではすく落ち着いて穏やかに過ごしています。いろいろな経験をしてお陰だと思っています。ここまで落ち着くまでが長かった。5年前に自分が起き上がれないということがあって、人は老いるんだなということをも自分の体で身をもってわかりました。それから、この子が今のように穏やかな顔で、親がいなくても過ごせる世界をつくらなくてはいいのだと思っています。(家族)

仲間との生活を中心に 関節子さん
入所して10年になり、以前と比べると、本人も驚くほど色々なことができるようになりました。障害があるというだけで、このままずっと親元で生活していいのかと考えるようになりました。私が倒れると、家の中の歯車が大きく狂ってしまうと

いう危機感を感じています。親の支配下にいるような生活をさせているのではないかと日々反省しています。本人自身が人間関係を作って、仲間との生活を中心にして、生活を営むことがこれからの人生なのではないかと考えています。(家族)

職員も頑張る 浜野亜希子さん

私がこの計画を初めて聞いたときに「ああよかった、安心した」と思った。私は無認可の頃から重度の人とかかわって、心の中で「この人達は、将来どうなるんやろな」とずっとありました。今回のように「あらくさ」だからできる暮らしの場を作ることで、私の今までの不安は、これから「あらくさ」に通う人たちの将来のことを自分たちが考えていくことができるんだという安心感に変えていくことが出来ると思います。職員の一人として支えることが出来るように頑張りたい。(職員)

実現への展望

あらくさ福祉社会理事 高野泰男さん

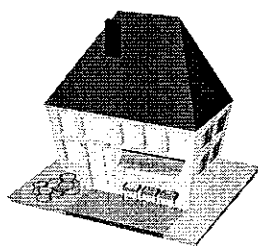
「あらくさ」は「地域の中で暮らし続ける」ということを大きな柱、理念として事業を進めてきました。①集合型ケアホームの建設事業は、施設をつくるだけでなく、健常者を含めて安心して暮らせる地域をつくっていく。②障害者にとつて良質なものの、障害状況に合わせ安心して落ち着いた生活ができる空間をつくる。制度改善の運動もする。③寄付が一番大変。工夫していろいろな寄付を集める。計画が実現できるように共に頑張ります。

施設作りの経験

岐阜・いぶき福祉会 頼綱英司さん

今、「いぶき」(利用者100名超は3棟のケアホームの設計を済ませて国庫の協議に入ります。3年前ホームを建てるために「仲間の所得保障のために授産活動を頑張る」「法人の体力を後援会などをとりくむ中で強化する」「重い障害のある方のQOLの向上とネットワークをつくる」「仲間、職員含めて高齢化の対策をする」を進めてきました。仲間の権利をきちっと保障していくために新しい制度作りもしていかなければならない。

誰もが安心して暮らし続けられる
地域づくりをすすめてみましょう



●仕事・生活・余暇●

仲間とケアホームで暮らす

「ケアホームかざぐるま」(長岡京市奥海印寺)で暮らしながら、「障害福祉センターあいらび」に通う30歳の勇毅さん。家業の荷作業のお忙しい時間を割いて、お母さんにお話しをうかがいました。

(取材)前田幸子・真殿尊子

男性4人のホーム生活

勇毅さんは、日曜の夕方から土曜の朝までを、4人の男性が暮らす「ケアホームかざぐるま」で生活しています。平日は毎日、ここから「あいらび」に通っています。

自閉症の障害があり、こだわりや、他の人の行動が気になります。4人で暮らしているために、洗面所で順番がまてず、大きな声を出したり、人が食事でご飯をこぼすと指摘したくなるなどの行動がよくみられましたが、最近では、そのようなことをしなくても納得できるようになってきたようです。

「このように落ち着いた生活が送れるように

なるまで、決して順調にきたわけではありませんでした。

勇毅さんの「アー」「キーッ」という声やホームでの音が近所に住む方からの苦情となり、以前の場所から今のホームに移転することになりました。その時は、自分のせいでホームがなくなったと思い、たいへん落ち込んだ時期もありました。

自宅での生活も大切に

今では、そうした問題を克服して、ホームで、ゆったりと自分の時間を過ごし、ホームへ帰宅してから、ヘルパーさんと近くの「コンビニ」へ、好きなおやつを買いに出かけることもあります。

土曜日は、自宅で過ごしますが、楽しみはお母さんとの「3時のおやつタイム」です。夜は、お父さんと枕を並べて就寝します。遠くへいても誕生日にはメッセージが届くお姉さんにも、小学校時代に学校へ連れて行って

もらった感謝の気持ちを今も持ち続ける勇毅さん。

勇毅さんが織った「かざぐるま」の布をお母さんが服に仕立て、それを着て成人式に出席しました。家族との結びつきを大切にされているようすがうかがえました。

休日はプールやマラソンも

日曜日には、ヘルパーさんと一緒に、京都市左京区にある「障害者スポーツセンター」のプールに行き、泳ぐのが楽しみになっています。また、体力づくりとしてマラソンにも高等部時代から参加しています。これまで北海道や山梨であった大会にも参加。今年は沖縄の「あやはし海中ロードレース大会」に参加し、10kmを見事に完走しました。



札幌にて(左)

平口は、「あらむね」「むねを織りや食品加工の仕事をし、仕事が終わるとホームで自分の時間を過ごし、休日には、好きなスポーツで汗を流す。こうした1週間のリズムをつくり安定した毎日を送る勇毅をみています。

「じつはじつは」いよいよ徐々に納得

「幼年期は、超多動だった」と、お母さんは当時を振り返ります。少しでも目を離すと、車の往来が激しい自宅前の道路に飛び出したり、近所の方や警察のお世話になることもしばしばありました。

電車の中で、くしゃみをする人をみつけると、走って行ってその人の口を閉じさせようとしたり、長い髪の女性の髪に触ろうとするなど、付きまといお母さんの苦悩は絶えなかつたそうです。また、丸い時計にこだわって、丸い時計を隠したり壊したりすることも。家の構造に興味をもち、黙ってよそのお宅に入っていくおひいちゃんもいました。

ところが、3年生までは小学校の障害者学級、4年生からは養護学校で学び、障害者学級保育の「わいわいランド」にも参加する中で、勇毅をはじめ、「興味があっても、じつはじ

つはじつは」を徐々に理解でき、おひいちゃんになってきました。

自立に向けて 積み重ねた体験

養護学校では、中学部3年と高等部2年のときに寄宿舎生活を体験しました。中学部のときは、泣いてばかりいたそうですが、高等部のときは、先輩からの刺激を受け、たくましくなってきたそうです。寄宿舎での生活は、自立に向けた貴重な体験でした。

いろいろな問題行動も起こしましたが、徐々に、「したいけれども、してはいけないのだ」ということが納得できるようになり、周りの人にも勇毅さんの行動が受け入れられるようになったことに、お母さんの安心した気持ちがうかがえます。

ホームでの生活も今年で8年になります。ホーム暮らしを始めた、先輩のお母さんとして、「本人の自立を考えると、ケアホームでの生活をひみなさんぜひ体験してほしい」とおっしゃっていました。

ひと月にかかる費用

(勇毅さんの場合 2010年3月)

ケアホームの家賃・水光熱費・食費

51,300円

制度(サービス)利用の自己負担

約2,000円

あぐさの風食費

約6,000円

国民保険料

約1,500円

外出のおやつ代等

約10,000円

かぞぐるま世話人

中嶋俊行さんの話

ホームに帰ったら、ほっとできる、体を休めて、疲れもとれるような、ゆったりと時間が過ぎるようになってきたらと思っています。

ホーム全体がうまくいくように、利用者さん同士が、譲り合ったり、これは迷惑をかけるなという時には、厳しい声かけもしますけれども、だいたいは、「大丈夫だよ」とか、「ちょっと待ってね」という言い方で、利用者さんと仲良くしようとしています。そういうことで、ホームの生活は、とても過ごしやすいようになっていくかと思っています。

(2月14日の「あぐさ」学習会内で)

の、ホーム紹介ビデオでの話より)

後援会のページ

平成22年度あらぐさ後援会の総会が、4月18日(日)あらぐさにて開催されました。

21年度の事業報告・決算報告・監査報告、22年度事業計画と予算案が、いずれも承認されました。

〔22年度事業計画〕

1 法人への資金援助として、特別基金から1,800万円を集合型ケアホーム建設支援のため寄付します。

2 あらぐさ集合型ケアホーム建設支援委員会を立ち上げ、建設支援の活動に全力を上げて取り組みます。

①「集合型ケアホーム」建設への共感を乙訓の多くの市民に広げます。

②スタートイベントの成功に向けて取り組みます。

③「集合型ケアホーム」建設に必要な3,000万円の資金づくりに取り組みます。

3 「集合型ケアホーム」建設を支援する1,000名の後援会をめぐし、会員の拡大と継続加入をすすめます。

①会員数の目標1,000名

②集合型ケアホーム建設支援の取り組みを通じて会員同士の交流を図ります。

③「あらぐさ通信」の発行

〔選出された新役員〕(敬称略)

会長 野々下靖子

副会長 中川千津子

同 増田 康夫

事務局長 大槻 昭

役員 稲葉薫、大久保久江

大城まゆみ、角根子、永崎靖彦、真殿尊子、丸岡正子、安田隆

会計 今西さよ子

会費納入・カンパ

ありがとうございます

個人会員 410人 702口

団体会員 13団体 25口

カンパ 48人 92700円

(09年4月～10年3月)

本年度の継続をよろしくお願いたします。同封の振込用紙をご利用ください。

あらぐさ後援会

平成21年度一般会計決算報告

収入		支出	
会費・カンパ	818,100	「通信」発行費	60,194
映画会収益	257,360	学習会等	144,892
利息	789	事務費	58,031
		特別基金へ繰入	610,657
		予備費	0
計	1,076,243	計	873,774

収支差額 202,469円は、次年度一般会計に繰り越し

平成22年度一般会計予算

収入		支出	
前年度繰越金	202,469	「通信」発行費	150,000
会費・カンパ	1,000,000	学習会等	200,000
		事務費	100,000
		予備費	50,000
		支援委員会経費	702,469
計	1,202,469	計	1,202,469

平成21年度特別基金決算(収入)

前年度より繰越 16,766,713

前年度一般会計より

繰入 617,635

利子 4,995

本年度一般会計より

繰入 610,657

収入計 18,000,000

(支出) 0

《収支差額》 18,000,000円

*次年度特別基金に繰越

平成22年度特別基金予算(収入)

前年度より繰越 18,000,000

計 18,000,000

(支出)

ケアホーム建設資金として

あらぐさ福祉会へ寄付

18,000,000

「集合型ケアホーム」建設 3,000万円募金に みなさまのご協力をおねがいします！

あらぐさ後援会・建設支援委員会が訴え

募金活動の概要は次の通りです。

《募金目標》 3,000万円

《募金活動期間》 2010年4月～2011年3月

《募金方法》

①あらぐさ後援会を通じた募金活動

*募金は1口1,000円、5,000円、10,000円

②バザー、イベントの収益

③団体・企業等へのお願い

④各種イベント等での募金活動

⑤街頭募金活動

⑥募金箱の設置

⑦物品販売

⑧現金以外のテレホンカード（未使用）、図書カード、商品券、ビール券等の寄贈

● 募金申込先

郵便振替口座 01070-7-32145

口座名義 あらぐさ後援会

※ 同封の払込用紙をご利用ください。

法人・事業推進室責任者
角 摂子さんに聞く



「集合型ケアホーム」の建設計画を聞かせてください

ケアホームとは、地域にある一軒の住居に4名～8名が入居し、日中は「あらぐさ」などに通いながら、世話人や生活支援員の支援を受けて暮らす住まいの場です。

私たちは、こうしたホームを、自力で土地を購入し、5年間で5棟、「集合型ケアホーム」として建てる計画です。
—なぜ「集合型」にするのですか

車いすを利用する方、自閉症の方、知的障害の方など、障害の特性に配慮した独自の設計をします。「集合型」にすることにより、生活の広がりや効果的な支援ができると考えています。

—資金計画はどのようになっていますか

300～400坪の土地の購入等で1億5千万円、5棟建設で1億5千万円、合計3億円が必要です。国庫補助や借入金、法人が積み立ててきたお金などをあてても、あと4千万円が不足しています。

—これからの決意を聞かせてください

後援会の皆様には建設支援委員会をつくっていただき、建設資金をはじめ物心両面のご支援に感謝しています。この地域で、どんなに障害が重くても暮らし続けられる地域づくりの取り組みとして頑張りたいと思っています。また、福祉制度を充実させる取り組みも合わせて力を入れたいと思います。よろしくお願いたします。

建設支援スタートイベントにお集まりください

とどけ！ぼくらの願い

「あらぐさ集合型ケアホーム」建設支援のつどい

あらぐさの理念と「集合型ケアホーム」について、多くの市民の皆様にご存知いただき、ご理解とご支援をいただく催しとして実施します。ご家族、ご近所、お知り合いをお誘いいただき、お越しいただきますよう、よろしく願いいたします。

日時 2010年6月19日(土曜日) 午前11時～午後2時 (雨天決行)

会場 障害福祉センター あらぐさ (長岡京市井ノ内)

おとくにパオさんの演舞
腹話術・堀江幸男さん ブラスバンド (予定)
地域のみなさんや、あらぐさ利用者、あらぐさ会、後援会などによる
模擬店・ミニバザーなど

願いを込めて
風船を大空へ
飛ばしましょう！

○雨や風が強く実施できない場合があります。○風船は環境に配慮した素材を使用します

日本財団の助成で 2台の車両を購入しました

このたび財団法人日本船舶振興会(日本財団)からの助成金交付(合計193万円)を受け、活動用車両として、スズキエブリイ(定員4名)と日産キャラバン・バン(定員6名)の2台を購入しました。

まことにありがとうございました。

法人へのご寄付御礼

石橋 淳子様
匿名(1名様)

まことにありがとうございました。
(2010年1月～3月)

平成4年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行) 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
頒価50円(購読料は会費に含まれています)
2010年5月18日発行 KTK 増刊通巻第3368号 〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519
京都社会福祉会館4階 京都難病連内 発行人 高谷修